

## 令和2年度第2回森林の未来を考える懇談会 発言要旨

- 1 日 時 令和3年1月27日
- 2 場 所 杉妻会館 3階 百合
- 3 出席委員 6名
- 4 議 事

### (1) 議題

令和3年度以降の森林環境税の在り方について一答申一

#### 【事務局】

(資料4による説明)

#### 【橋口委員】

資料4の6ページについて、市町村等が行う森林づくりの推進で、県内小中学校の72%が森林環境学習を実施しているが、残りの28%は怎么样了のか。

#### 【事務局】

各市町村で、学校への希望をとって実施している。先生が忙しい等の理由があると思う。

今後の事業の中で教育資材等を作成し、実施率の上がるような取組をしていく。

#### 【大堀委員】

①参考資料2の第4期の表について、施策3県民参画の推進、4市町村が行う森林づくり等の推進の順番が変わったのはなぜか。

森林環境税の導入の意味を考えると森林の保全にウエイトを置くべきなのではないか。

②施策4市町村が行う森林づくり等の推進の中に◎と○があるが、上から4つめの「荒廃が懸念される森林整備や、身近な里山林の整備、住民生活の安全確保のための森林整備」はなぜ◎では無いのか。

③資料4の16ページについて、原発の影響などがあつたのは確かだが、そもそも時代の流れというような林業の衰退は大きいと思う。福島県の木材が汚染されているという印象を与えかねない。風評につながらないような、夢を与えるものにできないか。

#### 【事務局】

①優先順位ではなく、基本方針を基に整理した。

②○について、おろそかにするわけではなく、同じように取り組む。

③今後の情報発信においては留意して取り組む。

**【柴田委員】**

①資料4の15ページの第4期の表の○継続的な森林環境教育・学習・活動における、「継続的な」は翌年も実施するという意味か、それとも成長段階に合わせて段階的にという意味か。もりの案内人の会で小学校ではよく森林環境教育の手伝いをさてもらっているが、中学校・高校になるとそういう機会がないように思う。小学校、中学校、高校でそれぞれどのような教育をしていくのか。年齢の段階的なプログラムがあってほしい。

②小学生に向けて森林環境教育を行う中で森林計画課が作成した森林環境学習下敷きを使用している。最近、同じく森林計画課が作成した「木のよさBOOK」という木材の機能などを説明したパンフレットも使用している。しかし、木のよさBOOKの内容を説明するにも1時間必要。もっと簡単なワンペーパーがあるといい。

**【事務局】**

継続的な森林環境教育・学習・活動の推進については森林づくりの提言などでも小学校以外での森林環境教育・学習・活動がなかなか行われていないといった事例があると意見をいただいた。そういった意見を踏まえ、第4期は、全ての世代への森林環境教育に取り組んでいく。

今年度は、幼保教育についての調査や、小学校の教育資材の方針作成を行っている。

**【橋口委員】**

①親子や、団体が森で「遊ぶ」楽しさを体験してもらう取組を行うために、地域でノウハウを持っている人材の掘り起こしや、安全管理講習の実施を市町村と連携しながらやってほしい。

②スキルのある人をネットワーク化してほしい。

**【事務局】**

森林環境交付金事業では可能かもしれない。今後の課題とし、検討する。

**【大堀委員】**

林業だけでなく農業でも鳥獣被害が問題になっている。里山整備をお願いしたい。

**【事務局】**

第4期の表の施策1森林環境の適正な保全の中で森林の保全については実施していく。その中に里山林整備も含み、緩衝帯の整備にも取り組んでいく。

**【太田委員】**

手入れの不足した里山がとてたくさんある。

森林環境税の認知度が低い。PRの仕方を工夫してまずは県民一人ひとりに森は大事、手入れしないといつまでも同じ森林があるわけではないということを知ってもらうことが必要だと思う。寄付等を募ってはどうか。仕組みはあるのか。

**【事務局】**

条例には寄付についての記載はない。

**【農林水産部次長】**

ふくしま植樹祭は寄付や森林環境税を活用して開催している。

県民アンケート等により認知度の低さについては把握している。しっかりと取り組む。

**【星委員】**

地方財団の調査で、若い人は自然が豊かな地方に住みたいと考えていることが分かっている。豊かな自然である里山を整備する必要がある。林業従事者の不足が問題である中、育成の補助事業はあるのか。

**【林業振興課長】**

森林環境税以外で雇用体制の支援はある。林業アカデミーでも里山林整備についてのプログラムを組み込むつもりである。

**【橋口委員】**

期の数値目標を設定し、単年度毎に見直すべきだと考える。長期目標と短期目標、また成功事例を報告すべきだ。

**【事務局】**

数値目標について今後の資料には加えていく。また成功事例については、SNS等で発信していくことで共有していきたい。

**【座長】**

本日は、リモートで参加した委員もいるが、新しい生活様式の中で、森林関係のイベントなどできるものはあるのか。

**【事務局】**

直接、森林環境税が関係しているわけではないが、今年度リモートで国と共同でイベントを開催した。

また、森林環境税を活用した森林自己学習支援事業の成果報告会を2月6日にオンラインで開催する。県のホームページで告知しているので機会があれば参加してほしい。

**【柴田委員】**

東日本大震災と森林の被害というところについて、相双・いわきに暮らす人々の認識とここに書いてある認識は乖離していると感じている。